

## 第80回「資本論を読む会」案内

## DAS KAPITAL

☆10月27日（月曜日）

午後6時30分Zoom開催

第2編 資本の回転

第7章「回転期間と回転度数」+第8章「固定資本と流動資本-第1節形態上の区別」[岩波文庫(四)p215-]

9月26日（金）に第79回「資本論を読む会」を開催。参加は8名。少し寂しかったかな。

今回は第6章流通費の「第2節保管費」と「第3節運輸費」とを読み合わせして討論しました。前回「第1節 純粋な流通費」の討論でも紹介しましたが、「流通費そのものが非生産的労働であること（商品の

価値には入らない）」が話題となっていました。今回の討論でも「保管費は（社会的な）失費である」と言いつつ、「ある程度まで商品の価値に入り、…商品を高価にするということによって、…第1節によって述べた流通費と区別される」（204p）との表現です。保管に必要とされる新たに追加される労働は「価値を生む」のですが、「この価値は商品価値・価格に単純に追加されるのか、損失した価値分を補填するのか」といった論議でした（たしか…ネ?）。このデーマは、久しぶりに座長から「宿題にしましょう」と先送りされた格好で中断。

「運輸費」については、その追加的生産過程について触れられています。「運輸業に投ぜられた生産資本は、一部は運輸手段からの価格移転により、一部は運輸労働を介しての価値追加によって、輸送される生産物に価値を追加する」（220p）。ここら辺は「そうだね…」となります。」

今回のレポーターはSaka林さん。ご苦勞様でした。次回は「第2編 資本の回転」の「第7章 回転期間と回転度数」に入ります（レポートはTakちゃん）。よろしくお願いします。

学習会終了後の懇親会では、いつもどおり政治情勢（今は自民党総裁選挙）や、参院選総括にかかる「立憲民主党の危機感の無さ加減」への嘆き、個人的な老人化具合?などについて話題が集まり、11時頃には解散となりました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Saka林さん

### 第6章 流通費 第2節 保管費

- ・保管労働は生産物を形成するわけではなく、その労働やそれに要する労働手段は、生産的充用から引上げられたものであるから、それ自体としては、非生産的な費用である。だが、この費用が生産物の使用価値の損耗を防ぎ、そのことにより価値の保存に必要とされる限りでは、それは、使用価値と関わりを持ち、その意味で生産過程と関連する費用である。そのような性格をもつ費用として、社会的には失費(しっぴ)に属するこの費用も、商品の販売価格に追加される。
- ・商品在庫の形成には、建物、倉庫、置場等の不変資本や、搬入、保管のための労働力の購入に向けた可変資本が必要となる。この保管のための資本投下は流通費をなすが、それが積極的に生産物を形成するものでないゆえに社会的には失費であるが、しかし、在庫商品の使用価値の損耗を制限し、商品のうちに存在している価値の保存に必要とされる限り、純粋の流通費とは異なる。その限りでは、保管に支出された生きた労働と対象化された労働は、商品に価値を追加するのである。
- ・いかなる社会においても在庫形成が必要とされ、したがって社会は、その生産物の維持費にほかならない保管費用を要する。要するに、保管費用は、社会的に必要とされる失費である。
- ・こうした意味での正常な在庫である限り、それに要する費用、すなわち、在庫形成に費やされる対象化された労働と生きた労働は、商品に価値を追加する。逆に、資本主義に特有な流通の停滞から生ずる変則的な在庫形成の場合には、その費用は、商品の価値に入らず、商品価値からの控除、すなわち、損失となるわけである。

### 第3節 運輸費

- ・売買としてなされる資本価値の形態変化は、多くの場合、家屋の売買や商品の所有名義を変えるに過ぎない投機者たちによる在庫商品の売買等は別であるが、商品の場所移転を伴う。
- ・言い換えれば、運輸によって使用価値は形成されず、むしろ、その損耗を引き起こす場合もあるが、しかし、その消費の場所に移されることなしには、使用価値はそもそも消費されず、したがって、使用価値として実現されえない。その意味では、生産物を生産部面から生産的ないし個人的消費の部面に移す運輸は、使用価値を形成する生産過程を完結する追加的生産過程ということができる。

